

2024年1月28日

## 「祈りの3つの敵」

私たちがイエス様のもとに出て行けないようにし、祈れないようにする3つの敵があります。

1つ目は、「私には資格がない」という考えです。このような思いを私たちに入れるのは、暗闇の力です。暗闇の力は、私たちが祈ろうとするたびに、「おまえに何の資格があつて神に祈るのだ。神がおまえの祈りを聞いてくれるとでも思っているのか」という考えを吹き込みます。祈り続けるためには、そのような考えを退けなければなりません。私たちは、イエス様の十字架の愛を受け、その愛によって神の子となりました。それだけでも私たちには祈る資格が十分あるのです。

2つ目は、「祈りにも限界がある」、「いくら祈っても意味がない」、「この問題は神様も解決できない」という考えです。人間の判断によって神様の力を制限してはなりません。祈っていると、自分が全く考えてもいなかった知恵が与えられます。何よりも、驚くべき慰めと勇気と新しい力が与えられます。ですから、どんなときでも祈らなければなりません。

3つ目は、「神様がいなくても、自分でなんとかできる」という傲慢な考えです。そのような考えがあるなら、思い出してください。イエス様は全能であられるのに、何をするにも、まず神様に祈られました。もちろん、祈ってもなお問題は残っているかもしれません。しかし、だからといって祈りが必要ないということではありません。「神様は問題よりも大きい」と信じて拠り頼む私たちの信仰を、神様はご覧になるのです。

月刊誌 リビングライフより

# 週報

§ 今年の教会テーマ  
「主を仰ぎ見つつ」

§ 今年の主題聖句  
「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、  
目を離さないでいなさい。」 ヘブル 12章2節

「彼らが主を仰ぎ見ると、彼らは輝いた。」 詩篇 34:5

〒513-0035 鈴鹿市矢橋町 471-2  
宗教法 人 日本ネクスト・タウンズ・クルセード  
鈴鹿キリスト福音教会  
059-383-5145(教会)

1月28日

本日のメッセージ  
聖書

「何があっても大丈夫」  
使徒 19:23～40

\* この道(キリスト信仰)のことで、大変な騒動が起こった。19:23  
銀細工人デメテリオが仲間の職人たちを扇動した。彼らはアルテ  
ミス神殿の偶像信仰者たちより大きな利益を得ていた。

19:24～28

\* 主はパウロのエペソを中心としたアジア伝道を大きく祝福された。

・使徒 19:20 こうして、主のことばは力強く広まり、勢いを得ていった。

・使徒 19:26 ところが、見聞きしているように、あのパウロが、手で造つた物は神ではないと言って、エペソだけでなく、アジアのほぼ全域にわたって、大勢の人々を説き伏せ、迷わせてしまいました。

\* しかしパウロは次々と大変な苦しみにも会いました。

・Ⅰコリント 15:32 もし私が人間の考えから、エペソで獣と戦ったのなら、何の得があったでしょう。

・Ⅱコリント 1:8 私たちの苦難について、あなたがたに知らずにいてほしくありません。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした。1:9 実際、私たちは死刑の宣告を受けた思いでした。

※ しかし、主はパウロをたいへんな苦難や危険の中でも、助け守られました。

1. 弟子たちや友人たちによって 19:30～31

◎ローマ 16:3-4 キリスト・イエスにある私の同労者、プリスカとアキラによろしく伝えてください。二人は、私のいのちを救うために自分のいのちを危険にさらしてくれました。

2. 不信者である町の書記官によって 19:36～40

書記官にはローマ政府の権限が与えられ、町の治安を守ることが彼の最大の務めであり責任であった。

3. 誰よりも主こそ、信じる私たちにとっての絶対的に確かな助け手である。たとえ、どんなに大変な事がらに直面することがあっても、信じる者には、神により確かな助けが用意されている。

◎詩篇 121:1～8

「私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。

私の助けは【主】から来る。天地を造られたお方から。

主はあなたの足をよろけさせずあなたを守る方はまどろむこともない。見よイスラエルを守る方はまどろむこともなく眠ることもない。

◎詩篇 34:4～7

私が【主】を求めると主は答えすべての恐怖から私を救い出してくださった。5 主を仰ぎ見ると彼らは輝いた。彼らの顔は辱められることがない。6 この苦しむ者が呼ぶと【主】は聞かれすべての苦難から救ってくださった。

【報告】

※ 「Z世代を巻き込む環境作り」の集会を教会でもズームで参加できるように用意しますので、希望の方は泉田兄にお伝えください。

※ 能登半島震災の被災者支援献金は来週の日曜日まで受け付けることにします。

※ 来月から第三週目の主日礼拝では普段よりも、賛美を強調した礼拝としていきます。